

祐善寺だより

第9号

発刊日
2002年10月15日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡朝日町上糸生・森 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



人の悪き事は

よくよく見ゆるなり

我が身の悪き事は

覚えざるものなり

蓮如上人

報恩講へご参詣を！ 11月2日(土)に厳修



昨年の報恩講、布教は出雲路師

本年度の当寺報恩講は、例年の通り十一月二日(土)に厳修されます。午前十時より日中法要、午後二時より速夜法要、午後七時より満座法要が勤まります。布教は、福井市南居・陽願寺老院・出雲路善嗣師です。

報恩講とは、九十年のご生涯をかけて、私共にお念仏のみ教えを顕かにしてくださいました宗祖親鸞聖人のご恩徳を偲び、お念仏のみ教えに生き抜こう、との願いのもとにお勤めする法要で、浄土真宗の門信徒にとっては、最も大切な法要であります。

どうか、ご家族、ご近所、お知り合いのご法友、お誘い合わせの上、是非共にご参詣下さいますよう、お願いいたします。

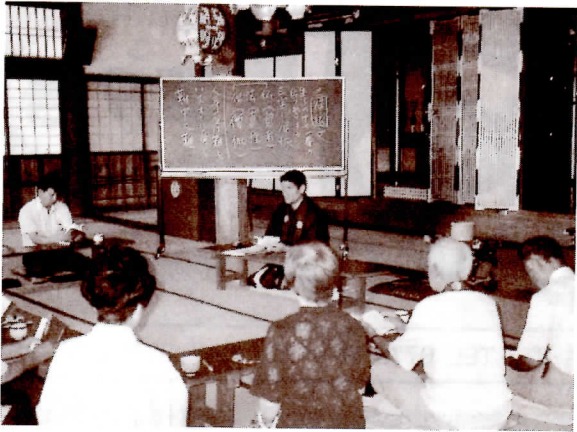
平成十四年度 同朋会を終えて

本年度の同朋会は、御遠忌法要の影響で六月から始まり九月までの第一日曜日午前八時半から実施しました。

正信偈のお勤めで始まり、御和讃の意味を尋ね、法語カレンダーで月の言葉について意見交換したりしました。

同朋会に参加された方へアンケートをとらせていただきました。結果は次の通りです。

また、参加者の皆様の感想文を載せさせていただきます。同朋会の充実のために参考にさせていただきます。



同朋会は正信偈のお勤めから始まる



同朋会は座談の時間が楽しい

△同朋会についてのアンケート▽

●同朋会についての質問は、ありませんか？

- ・正信偈の読み方がまだわからないので、もっと勉強したい。
- ・寒くなると何故やらないのですか？冬のほうが、皆、暇になると思いますが。
- ・皆さんで話し合って、仏様の正しい教えを聞いていくと、楽しい生活ができるようになると思います。

●同朋会への注文・提言はありませんか？

- ・個人一人ひとりの楽しみ、苦しみを打ち明ける事の出来る時間も欲しい。
- ・人の悩みを聞いてあげるのも、また、良いのではないだろうか。
- ・日時について、もう一度、考えて欲しい。

・皆がもつと心の視野を広げると、お寺が素晴らしいものだと気付くと思います。

・同朋会に参加する皆様方々と話し合う楽しみが出来、生活が面白くなり、夫婦げんかも笑って終ります。

●お寺へ足を運ぶに参詣する、ということはどういうことですか？

- ・今は、皆、あちこちで会合が多く毎日忙しいため、お寺へ足を運べないのではないのでしょうか。自分は、出来るだけ参加するようにしています。

・まず、一時間でも二時間でも奉仕活動を行うことで、一人でも多く寺へ足を運ぶようになると思う。

・お寺へ足を運ぶのが楽しくなり、皆様と共に話し合って、その日その日の生活を楽しく暮らすことができると思います。お寺へ参詣するのが、一番の楽しみです。年のせいでしょうか。

参加者感想文

その①

同朋会に参加して

私は同朋会に参加して思いました。

これは自分の「行」（仏道の修行）だと考える。そう思うと、まだまだ自分の心はなまぬるい。なぜなら同朋会は第一日曜日と分かっていても、仕事が忙しければそちらを優先してしまう。

そこで一つ提案させていただきます。今一人一人が考える事は、先ず自分の事だけではないでしょうか。たとえば自分の心に合わせて人の心を考えるのではなく、人の心を自分の心に合わせるといったような事など、何でも一つのテーマを題して学んでいく。自分の苦しみ、又現在、そして未来、自分の心をどう動かすか話し合っ自分心を見つめてみたい。

よく「人の心は分かん」とか「気は心」又「心の持ちよう」など、心についてのことわざはまだたくさんある。

寺詣りは年寄りの仕事ときめつけているようですが、これは死が近づいてきた者だけがお寺を心のより所としているのに他ならない。みんな思っている事は死んでからの事ではなく、現在

生きて行く上での幸福・安心を願っているのではないでしょうか。大勢の参加をお願いして話し合おうではありませんか。

野村 明良

お寺へお参りするのにどんな得があるのだろうか？皆が参るから行くのかな？それとも年寄りだから行くのかな？田舎へ帰った時に（四十才）いつもそう思っていました。

祐善寺の同朋会に行くにつれ心が迷わずすんなりと両手をあわせる事が出来る。苦しみ、悩み、悲しみ、佛様に頼めば許してもらえらる？そんな事でもない自分がしつかり生きる。

『生きているうち、はたらけるうち、日のくれぬうち』

自分をあまやかしている事が悪いのである。自分はこのように生きていられるのも先祖があるからなのだと思います。

野村 武次

今年は、桜の満開も異常に早く、夏季は異常なる酷暑に見舞われましたがお蔭様にて、心配しました台風にも難を逃れ、農作物も平年作を上回る年に

なり、感謝の毎日を過ごさせて頂いております。

昨年に引き続き同朋会に参加させて頂きまして、感じたことを拙文ながら書かせて頂きます。

①仏法に關しまして、ご住職より大変に分り易く指導していただきまして感謝しました。

②今、現在生活させて頂いている日頃の考え方が、同朋会に参加させて頂いて、より喜んで進んで働く様になった事。この世では一人の力では生きていけないという事。

③お寺の行事には、何時参加させて頂いても、ご住職はじめご家族様より真心のこもった接待や気配りには恐縮しております。ありがとうございます。

松島 森一

去年より引き続き同朋会に参加させて頂いたが、夫と共に、健康で務めさせて頂き、最高の幸せと喜んでおります。

今後も同朋会が続いて行きますように祈ります。一人でも多くの方々が仲間入りして下さい様に願っております。

お寺の下で生まれて、朝夕の鐘の音、そして、恩徳讃と有り難い歌音を聞くたびに、思わず出てくる念仏に年を感

じ幸せを感じさせて頂きます。

お寺に身一杯奉仕させて頂く自分を、本当に果報者と喜びで一杯です。

これもご先祖様のお蔭様と深く感謝しております。

木下リツオ

毎日、朝夕の鐘の音で、思い出したように、「なむあみだぶつ」と、唱えさせてもらっています。いい年になっても、なかなかお念仏が出てきません。お寺様の下にいるお陰で、毎日、鐘の音を聞かせてもらっています。

ありがとうございます。

島 ハル

暑い夏も過ぎ、朝夕涼しく虫が鳴き秋らしくなっています。

毎月お寺様のお庭をふみ、仏様の前にて手を合わせることは幸せです。

お勤めの本を開いたことのない私です。同朋会に出させてもらい、皆様の後についてお勤めが出来ることは、ほんとうに幸せです。

お寺様は、心の休まる所だと感謝しております。御住職様、奥様、ほんとうにありがとうございます。

桑原はつえ

昨年に引き続き、今年も同朋会の行事を営んで頂きまして心より感謝して居ります。住職様を始め、御家族の方には何かとお忙しい中、同朋会の為にこの行事を続けて下さった事を厚く御礼申し上げます。お陰様で私は夫婦揃って参加させて頂きました事、幸福に思っています。

まず御本尊様に手を合わせ拝ませて頂きますと、何とも言えない心の安らぎを感じました。そして在所の方、又他所の方遠方よりお参り下さり、共におつとめをさせて頂けた事が有り難く、喜びでも有りました。又、住職様より仏法のお話を聞かせて頂き、今生かされて有る有り難さ、命の尊さを深く感じ、この御縁に合わせて頂けましたのも御先祖様のはからいと思えました。最後に恩徳讃を唱和させて頂き、心にとんと来るものが有りました。来年もより多くの方々が参加して頂きますよう願って居ります。ありがとうございました。

松島 静子



新聞ファイル

稚児行列にご参列の黒田さん 福井新聞

「写真の広場」ファミリーの部入選!!
五月二十六日に厳修した蓮如上人五百回御遠忌等法要稚児行列にご参列いただきました今立町の黒田理香さんの写真が、福井新聞「写真の広場」ファミリーの部（七月）で見事入選され、新聞に掲載（左欄）されました。

黒田様のお写真は、泰澄の杜入り口でお子様のお姿を記念撮影したものです。二人のお子様のとても可愛い表情がステキです。

本当におめでとうございました。
福井新聞 八月二十二日より



「稚児行列」 今立町 黒田 理香
初めてのお稚児さん。お兄ちゃんと二人、暑いで閉口しました。座り込んだボクの高さで写したかった。

平成14年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に互つて護持していただくために、護持費をお願ひしておりますが、今年も次のとおりご志納下さいますようお願いいたします。

◇護持費の使途

- ・報恩講の厳修費や本山奉仕 団補助等、教化事業の実施
- ・本堂を守る火災保険や環境維持費用

- ・福井別院御遠忌負担金
- ・本山相統講、福井教区賦課金等
- ・その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・寺へ直接志納する
- ・秋まわりや法事で任職が貴家を訪問の際に志納する
- ・地区の役員さんに志納する
- ・郵便振替口座

（〇〇七七〇―九一三〇七二一）
加入者〓祐善寺へ振り込む

◇志納期限

毎年十一月末日

其の五

仏事 一口メモ

三具足 土香炉

前回は、お内仏に必要な仏具「三具足（みつぐそく）」花瓶（かひん）・土香炉（どこうろ）・燭台（しょくだい）のうち花をお供えする花瓶に關してお話しました。今回は、花瓶と燭台の間に置く土香炉のお話です。

土香炉は、陶器の香炉のことで、線香を燃やすときに使います。線香は、香炉の大きさに応じて適当に折り、火をつけてから横にたおして灰の上に置きます。火の付いた方が左側になります。

よく、線香を香炉に立てる方もありますが、浄土真宗では立てることはいたしません。その理由について考えてみたいと思います。

第一は、横に寝かせるのが本来的な形だということです。線香を燃やすことを燃香（ねんこう）といいます。燃香はもともと抹香（まっこう）（櫛（しきみ）やあせびの葉を干して細かくしたものを）を香炉に盛り火をつけて燃やすことで、その代用で線香が使われてきました。つまり、立てるものではなかったということです。

第二は、迷信からの解放です。特に通夜・葬儀の際、線香を一本立てて、

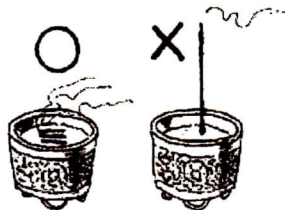
その煙が真っすぐ上がるのがいいという考え方があります。真っすぐ上がれば迷わず成仏する（？）ということなのでしょう。しかし、亡くなつていかれた方と線香の煙との因果関係は全くありません。迷われないように。

三番目は、危険性の問題です。参詣者が多く何十本もの線香を香炉に差しますと、線香が燃えつき灰の中が熱くなります。すると、後から差した線香が下から燃えだし、線香が倒れて火災の原因になりかねません。

さて、線香は、朝晩のお勤めの前に燃じます。お勤めをなされない場合でもお線香を燃じてから合掌礼拝（らいはい）されるようにしましょう。

香を焚（た）くことは、お釈迦さま當時から行われていたといわれています。現在は、お内仏（仏前）を荘厳（しようごん）するときは必ず香を使います。薫香（くんこう）（かおり）が平等に行き渡ることをもつて、仏さまの教えが平等で普遍的であることを表現します。薫香をもつて仏さまの世界（浄土）を表しているのです。毎日のお勤めと香のかおりをとおして、仏さまのこころを学んでいただきたいと思います。

「サンガ」より



毎日のお勤めの前に、線香を燃じます。線香はどんな土香炉にも立てません。香炉は三本足の一本が正面になるように置きます。

第1回

御和讃講座

弥陀成仏のこのかたは

法蔵菩薩が修行され

阿弥陀様となられて、

それ以来

いまに十劫をへたまへり

私の今の現実になるまでに、

果てしもない時を経たのです。

法身の光輪きはもなく

法の身をいただきたいのちは、

無限の光の輪となつて

世の盲冥をてらすなり

いのちを見失っている私どもを

照らし続けます。

年忌法要を

お勤め下さい

本年度の年忌法要は、左表の通りですが、貴家の過去帳をご確認の上、まだ、お勤めされておられない方は、かけがえのない御先祖の年忌法要を是非、お勤めして下さいますようお願いいたします。

平成十四年度年忌表

百回忌	明治三十六年没
五十回忌	昭和二十八年没
三十三回忌	昭和四十五年没
二十五回忌	昭和五十三年没
十七回忌	昭和六十一年没
十三回忌	平成二年没
七回忌	平成八年没
三回忌	平成十二年没
一周忌	平成十三年没

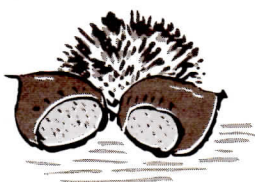
おくやみ

佐々木ふみ子様（坂井郡坂井町朝日）には、九月十二日、行年八十二歳にて往生の素懐を遂げられました。御生前中の御功勞に、心より深謝申し上げます。



投稿のお願い

この『祐善寺だより』の発行を支えて下さるのは、皆様からの投稿やご協力が不可欠です。どうか、日頃感じられている「宗教」の話や、社会の出来事についての感想、生活で感じられていること、本山や祐善寺に対してのご意見など、どのようなことでも結構です。どしどしご投稿下さいますようお願いいたします。



お知らせ



報恩講

十一月二日(土)

日中 午前十時より

法話一席

逮夜 午後二時より

法話二席

満座 午後七時より

御伝鈔拝読

法話一席

布教 出雲路善嗣師

皆様お誘い合わせの上、
ご参詣下さいますようお願い
案内申し上げます。

「祐善寺だより」 バックナンバー ご請求ください!

「祐善寺だより」第八号は、去
る八月に発行しましたが、手違い
により配布ミスがございまして、
一部のご門徒に大変失礼をおかけ
しましたことを、大変申し訳なく
お詫び申し上げます。

尚、「祐善寺だより」は、平成
十二年二月に第一号を発行して以
来、皆様のご協力により今号で第
九号となりましたが、各号バック
ナンバーがございましたので、欠け
ている号がございましたら、
ご請求下さい。ただし、第一号は
残部僅かとなりました。ご了承下
さい。

また、五月に発行しました『大
慶院釈正謙五十回忌法要記念出版・
温故知新』も、在庫がございませ
ご入用の方は、ご一報下さいます
ならば、お届けいたします。

入門 介護保険⑨

シヨートステイとは?

在宅のお年寄りが、家族の急用
や冠婚葬祭、地域の行事、旅行、
休養等により介護できなくなった場
合に、一時的に施設に入所し、そ
の間、施設が代わって介護を引き
受けるサービスです。

シヨートステイは、特別養護老人
ホーム等、介護を軸にするものを短
期入所生活介護と言ひ、日中はク
ラブ活動やレクリエーションに参加
して過ごします。また、老人保健施
設等、医療を軸にするものを短期
入所療養介護と言ひ、医師や看護
師等の医療スタッフから医療ケアや
リハビリを受けることが出来ます。

ただ、シヨートステイは、環境の
変化により、お年寄りにストレスを
与えることもあり、利用前に施設を
見学したり、お年寄りの状態を施
設側へ詳しく伝えておく等の配慮が
必要です。

シヨートステイを利用するには、
「要支援」以上の介護認定が必要で
す。もちろん、どの施設を選ぶかは、
利用者が勝手に決めることができま
す。入所費用は、施設利用料の一
割です。

編集後記

★あんなに暑かった夏も何処へやら過
ぎ去り、今はもう秋。凌ぎやすくなっ
てきましたが、皆様には、夏のお疲
れなど出ておりませんか?

★先号が配布ミスにより、お渡しして
いるはずのところ、お渡しできてな
い方がおられます。大変ご無礼を
おかけいたしましたことを、申し訳
なく思っております。お許し下さい。

★八月二十二日の福井新聞に可愛いお
稚児さんの写真が掲載されてありま
した。よく見ると、バックは泰澄の
杜ではありませんか。当寺御遠忌法
要稚児行列にご参列の黒田様の写真
が入選されました。とても嬉しい限
りです。御遠忌法要稚児行列を、か
げがえのないお子様の一生の良い想
い出に残しておこう、とされたお母
様のお心遣いが、とても素晴らしい
と思うのです。ありがとうございます。

★今年度の当寺報恩講も、半月後に迫っ
てきました。どうか、皆様お誘い合
わせて、ご参詣下さいますように。
★朝夕、肌寒くなってきましたので、
油断して風邪などひかれませぬ様に
ご自愛下さい。